

## 青少年の成長・社会的課題の 解決に貢献するスカウティング

- スカウトたちが、活動の中で身に付けたいいわゆる野外活動スキルを人生や生活の中でどう活用するかという視点に立ったプログラム開発や指導がしっかりと行われているという状況にはありません。
- スカウト一人ひとりが幸福な人生を歩むために、地域や社会、身近な仲間から必要とされることで自己有用感を高め、スカウトスキルとは野外活動に必要なもののみならず、自立して生きていくために必要なものと位置付け、どの部門においても地域や生活に密着したプログラムを展開します。また、「地域と共に歩み、社会課題の解決に貢献するスカウティングを目指す」ために、(仮称)「日本青少年プログラム方針」を策定し、この方針に沿って進級課目、選択課目の改定やプログラム開発を進めます。
- さらに、良質で時代に即したプログラムを専門的知見から開発し、常にブラッシュアップするために(仮称)スカウト教育研究所を設立する取組みを進めます。

### 施策の体系

#### 基本施策III 「青少年の成長・社会課題の解決に貢献するスカウティング」

施策III-1 青少年の成長に貢献するプログラム開発に関する取組み

施策III-2 社会課題の解決の貢献するプログラム開発に関する取組み

施策III-3 時代の変化に即応プログラムのあり方に関する取組み

## 重点事業の体系

### 施策Ⅲ－１ 青少年の成長に貢献するプログラム開発に関する取組み

重点事業Ⅲ－１－① （仮称）「日本青少年プログラム方針」の策定とそれに則ったプログラム開発・評価に関する取組み

重点事業Ⅲ－１－② 様々な団体等や地域と連携したプログラム開発の推進（重複：Ⅰ－１－②）

## 重点事業Ⅲ－１－① (仮称)「日本青少年プログラム方針」の策定とそれに則ったプログラム開発・評価に関する取組み

### 1 日本連盟の現状とこれまでの主な取組み

- WOSM・APR との連携は、これまで国際委員会を中心に対応してきましたが、2022年度の機構改革により、国際委員会を廃止して全ての委員会に国際担当を配置しました。WOSM・APR に関する情報を共有し、各委員会がそれを事業に反映させ、さらに日本連盟として横串をさすために国際コミッショナーを長とし、各委員会の国際担当から成る国際業務連絡会を設置しました。
- 第40回世界スカウト会議（2014年スロベニア・リュブリャナで開催）で採択された「World Scout Youth Programme Policy」（世界青少年プログラム方針）は、「青少年プログラム促進のためのガイダンスの骨子」として位置付けられ、プログラムの定義やプログラム開発について示されています。この「世界青少年プログラム方針」を踏まえ、日本社会の状況など実情に応じた日本連盟の方針の策定には至っていません。
- これまでも「環境教育」などの社会課題に対応するプログラムを提供してきましたが、これが進級課目とリンクさせなかったため、広くスカウトが取組んできたといえる状況にはなりませんでした。

### 2 2032年度の姿（この10年で取組むこと）

- 「世界青少年プログラム方針」を踏まえた（仮称）「日本青少年プログラム方針」が策定され、全ての指導者がこの方針を理解している。（主：プログラム担当）
- 班制教育や進歩制度のあり方、社会課題の学習やその解決に貢献するプログラム、少人数隊のためのプログラム、キャンピングスタンダード等については、「日本青少年プログラム方針」に基づき、開発、展開されている。また、スカウティング研究所（P76参照）などの第三者からも定期的に評価され、必要に応じて見直しがされている。（主：プログラム担当）
- 日本独自のプログラムは定期的に、WOSM、APR へ向けて発信されている。（主：プログラム担当）
- JOTA-JOTI、MoP など WOSM、APR 事業へ積極的参加し、CJK などの国際プログラムが実施されている。また、国際社会を生きていくために必要なコミュニケーション能力を備えているスカウトを多く育てている。（主：プログラム担当）

### 3

## 主な成果指標

	現状（2022年）	5年後（2027年）	10年後（2032年）
（仮称）「日本青少年プログラム方針」の策定と理解の促進	策定していない	学習の場が全ての県連盟で提供されている	-
国際社会を生きるために必要なコミュニケーション力の強化	実施していない	外国語のみのフォーラム（国内）や国際プログラムなどの実施	国際大会、APR 指導者訓練、国際フォーラムなどの誘致

### 4

## 計画期間の主な取組み

主な取組み	R5(2023)	R6(2024)	R7(2025)	R8(2026)	R9(2027) 計画見直し年
（仮称）「日本青少年プログラム方針」の策定と理解の促進	（仮称）「日本青少年プログラム方針」の策定	県連盟単位でコミッショナーを通じた周知	セミナーの実施 必要に応じて更新		
（仮称）「日本青少年プログラム方針」に基づいたプログラム等の開発、展開と評価	ボーイ、ベンチャー、ローバー部門の教育内容等の見直し	（仮称）「日本青少年プログラム方針」に基づく教育内容の検証	以後、定期的に見直し		
	評価のあり方検討		評価の試行→検証	以降、年1回の定期的な評価を実施	
国際社会を生きるためのコミュニケーション力を強化	事業のあり方等について検討		試行事業の実施→評価	評価を踏まえた試行事業の侍史	外国語のみのフォーラム（国内）、国際プログラムなどの実施

主な取組み	R10(2028)	R11(2029)	R12(2030)	R13(2031)	R14(2032) 計画最終年
（仮称）「日本青少年プログラム方針」の策定と理解の促進	日本版プログラム方針の見直し→改訂	セミナーの実施			
（仮称）「日本青少年プログラム方針」に基づいたプログラム等の開発、展開と評価					
国際社会を生きるためのコミュニケーション力を強化	外国語フォーラムの継続実施	国際大会、フォーラム、APRLTの誘致検討			国際大会、フォーラム、APRLTの実施

## 重点事業Ⅲ－１－② 様々な団体等や地域と連携したプログラム開発 (重複：Ⅰ－１－②) の推進

### 1 日本連盟の現状とこれまでの主な取組み

- 地域の団体、社会課題の解決に取り組む団体や様々な企業と連携・相互協力の関係を構築することがますます大切になってきていますが、これまでの取組みは企業とコラボレーションしたチャレンジ章、スカウトの日（セブンイレブン記念財団）、難民支援衣料回収プロジェクト（株式会社ユニクロ、国連難民高等弁務官事務所）、日本スカウトジャンボリーなど主催大会における運営支援やプログラム提供等に限定されています。
- 団、地区、県連盟での地域の団体や企業との連携・相互協力の関係は構築されているもののその数は限られています。

### 2 2032年度の姿（この10年で取組むこと）

- 日本連盟ではスカウトの興味や関心に応じたプログラム開発にあたり、さらに様々な団体、企業と相互協力の関係を構築し、そのリソースの活用が積極的に行われている。  
(主：プログラム担当、副：社会連携担当、AIS 担当)
- 団、地区、県連盟においても、地域の様々な団体と連携したプログラムが日常的に行われており、それらの事例を共有するための仕組みが構築されている。(主：プログラム担当)
- スカウティング研究所（P76 参照）、(仮称) ローバーアカデミーネットワークに属する各専門家からの専門性の高いプログラム提供がなされている。(主：プログラム担当、スカウティング研究所)
- スカウトが自分の住んでいる地域の特徴を学び、郷土愛を育むことを目的に県連盟が原則として地域の団体や企業と連携して、地域性のあるチャレンジ章や技能章を開発している。(主：プログラム担当)
- 全てのプログラムがスカウティング研究所により様々な視点から評価されている。  
(主：スカウティング研究所)


### 3

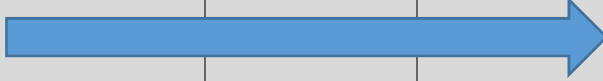
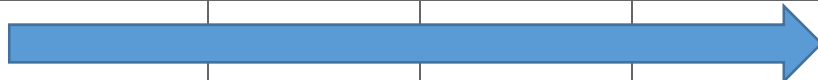


## 主な成果指標

	現状（2022年）	5年後（2027年）	10年後（2032年）
日本連盟及び県連盟と様々な団体との相互協力の関係構築	セブンイレブン記念財団、株式会社ユニクロ、国連難民高等弁務官事務所など  企業とコラボレーションしたチャレンジ章	日本連盟において最低2つの新規事業を行っている→その手法を県連盟と共有し複数の県連盟で同様の取組みを行っている（I-1-①と共通）  企業とコラボレーションした・3県連盟で地域性のあるチャレンジ章、技能章が開発されている。	複数の県連盟において複数の新規事業を行っている（I-1-①と共通）  10県連盟で地域性のあるチャレンジ章や技能章が開発されている
専門性の高いプログラムの提供	ローバーアカデミー公開セッションを3回開催	スカウティング研究所の設置→2028年度から連携開始	スカウティング研究所をはじめとする様々な団体等と協同してプログラム開発が行われている
スカウティング研究所によるプログラム評価	実施していない	スカウティング研究所の設置→2028年度から評価開始	評価が定着しその結果が公表されている

### 4

## 計画期間の主な取組み

主な取組み	R5(2023)	R6(2024)	R7(2025)	R8(2026)	R9(2027) 計画見直し年
日本連盟及び県連盟と様々な団体との相互協力の関係構築	現状の実態調査・分析	調査・分析を踏まえて新規団体へのアプローチ	 企業とコラボレーションしたチャレンジ章、技能章の開発		最低2つの新規事業を行っている→その手法を県連盟と共有し複数の県連盟で同様の取組みを行っている
専門性の高いプログラムの提供	-	-	-	-	スカウティング研究所の設置→2028年度から連携開始
地域性のあるチャレンジ章や技能章の開発	開発指針の決定→試行県連盟の公募	試行県連盟で考査細目などの検討→施行	試行県連盟で施行	試行県連盟での評価→本格実施の公募	3県連盟で開発
スカウティング研究所によるプログラム評価	-	-	-	-	スカウティング研究所設立→評価のあり方検討

主な取組み	R10(2028)	R11(2029)	R12(2030)	R13(2031)	R14(2032) 計画最終年	
日本連盟及び県連盟と様々な団体との相互協力の関係構築	県連盟の取組みの共有					複数の県連盟において複数の新規事業を行っている
専門性の高いプログラムの提供					スカウティング研究所をはじめとする様々な団体等と協同してプログラム開発が行われている	
地域性のあるチャレンジ章や技能章の開発	開発手法などを全ての県連盟に共有					10県連盟で開発
スカウティング研究所によるプログラム評価	スカウティング研究所による評価					評価の定着→その結果の公表



ボーイスカウト日本連盟

100年のあゆみ  
新たな100年に向けての挑戦



## ボーイスカウト日本連盟創立100周年記念式典 天皇皇后両陛下 御臨席

令和4年11月26日(土) 明治神宮会館



### 天皇陛下おことば

ボーイスカウト日本連盟の創立100周年を、皆さんと共に祝うことができることをうれしく思います。

日本におけるボーイスカウトの歴史は、大正10年に、当時皇太子でいらした昭和天皇が英国を訪問された際、ボーイスカウト運動の創始者であるベーデン-パウエル卿とお会いになり、スカウト運動に関心を持たれたことが契機となり、翌年、少年団日本連盟が創立されたことに始まると聞いています。以来、ボーイスカウト日本連盟が、100年の長きにわたり、「ちかい」と「おきて」の実践を通じて、青少年の健全な育成に取り組んでこられたことに対し、深く敬意を表します。

私が、日本連盟の行事に初めて参加したのは、今から44年前の昭和53年に静岡県御殿場市で開催された第7回日本ジャンボリーでした。その後も日本ジャンボリーやシニアスカウト大会、また、日本アグーナリーなどの諸行事に参加し、スカウトの皆さんとキャンプをしたり、富士登山をしたりしたことは今でも良い思い出になっています。そして、自然の中で仲間と一緒に知恵を出し合い、体を動かすことの大切さや、スカウト活動の楽しさを体験できたことも、得難い経験となりました。スカウトの皆さんが、様々な活動に積極的に参加し、日本全国、そして世界のスカウトとも友情を育みながら、良き社会人となるために研鑽に励んでいる姿を頼もしく感じました。日本連盟創立から100年を迎える今日までの間に、青少年を取り巻く環境は大きく変化してきました。地球温暖化や生物多様性の減少が進行し、地球環境の保全・保護活動や環境教育、そして、防災の重要性が一層増してきている中、自然への理解を深め、自然を友として親しむ心や能力を育むスカウトの活動は、大変意義深いものと思います。

今後のスカウト運動の一層の発展と、日本、そして世界の子供たちが健やかに育っていくことを願い、式典に寄せる言葉といたします。

(機関誌SCOUTING 2023年1月号より)



創立50周年



創立75周年



創立60周年



創立90周年